

令和7年度 静岡県立袋井特別支援学校 第4回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和8年2月27日（金） 9：30～11：30

2 会場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者 計16人

竹野 昇 (会長)
早川 俊之 (副会長)
鈴木 雅宏 (地域コーディネーター)
山本 洋子 (委員)
川端奈津子 (委員)
柴田 七重 (委員)
石黒 加奈 (委員)

学校（校長、副校長、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部副主事、教務課長、支援連携課長、コミュニティスクール・コーディネーター）

4 内容

(1) 校長挨拶

- ・2月、3月の児童生徒の活動の様子（卒業式の練習など）
- ・教職員の様子（年度末を迎えるにあたり）
- ・本日の学校運営協議会議題について

(2) 会長挨拶

- ・本日の学校運営協議会について

(3) 報告事項

①学校関係者評価について

- ・中学部3年生、高等部3年生の進路状況と進路に向けた生徒の様子について資料をもとに報告

②令和7年度学校経営報告について

- ・自己評価、保護者アンケート、高等部生活アンケートについて資料をもとに報告

③令和8年度学校経営計画案について

- ・資料をもとに説明

④委員より提言

<ICT機器について>

委員：使い方を正しく理解しないと悪い方向につながる。子供たちがICT機器を使って伸びることが大切。もっと活用が増えることを期待している。

学校：各学部での ICT 機器の活用の具体的例と効果を報告。

<ヒヤリハット報告について>

委員：ヒヤリハット報告の件数が多かった「個人の思い込み」は、具体的にはどのような内容か。

学校：放課後デイサービスの利用だったが、スクールバスに乗せてしまったなど、下校方法の間違い。

委員：このような思い込みは、確認することで防ぐことができる。

学校：今回のヒヤリハットをきっかけに、下校方法のダブルチェックを取り入れ、繰り返すことがないように改善を図った。

学校：日頃から、「声を出そう」と言っている。自分では思い込みに気付くことができなくても、声に出すことで、他の人が気付いてくれるため、「声を出す」ことは大切。

<避難訓練について>

委員：避難訓練に実際に立ち会えると良い。

学校：PTA 地域防災と連携できると良い。

<評価について>

委員：病院でも評価を行っている。職員みんなが同じ方向を向いていることが大切。この学校も教職員が同じ方向を向いている。また、病院では、病院間の評価も行っている。学校間の評価があってもよいのではないか。

<スマートフォン等について>

委員：生徒のスマートフォンや LINE 利用に関することは、学校の取り組みにおける位置付けはどこの部分になるか。

学校：「自他を尊重し合う意識の醸成」や「自他の人権意識を大切にする態度を高める」の項目に関連する。先週開催された学校保健委員会でも、SNS について話題になった。

<子供たちの成長について>

委員：子供たちの成長を実感している。コミュニティセンターが「自分たちの場所」になってくると、コミュニティセンター側が従来の体制のままでは、成長した子供たちにとってつまらない場所になってしまうのではないかと心配している。子供たちの成長に合わせて、コミュニティセンターも提供する内容などを変えていく必要がある。コミュニティセンターの壁面などを活用し、子供たちが主体的に表現活動を行うなどの活動ができると良い。子供たちが卒業後に地域に戻ってきた際に「あそこは自分たちがやった場所だ」と思えるような、未来につながるものを地域に残すことができるのではないか。

<学校と地域とのつながりについて>

委員：学校と地域が非常に良好な連携を築いている。このような取り組みが袋井市全体で行われているのか、あるいはこの地域特有のものなのか。

学校：学校がある地域での連携活動は他の学校でも行われているものの、本校のある地区での活動は、他と比較しても特に活発であるという印象をもっている。その理由として、この地域の住民が非常に協力的であり、袋井市全体として、県立である特別支援学校を市立学校と同様に捉え、熱心に関わってくれていることがあげられる。本校での実践があるので、新校の地区は期待している。

委員：袋井市の「子ども若者家庭センター」のシンボルマークを、袋井特別支援学校の生徒と袋井商業高校の生徒で作ることができた。学校評価については、去年はB評価やC評価があったのに対し、今年は全てA評価である。子供たちのために最善で取り組んでいると感じる。

(4) コミュニティスクールの活動報告

① 中学部高等部の地域販売会について報告

・コミュニティスクールについて、写真を示しながら活動の様子を報告

② 委員提言

委員：高等部農園芸班の野菜を購入された方が、その野菜を使った料理を自身のInstagramに投稿していた。購入した食材を活用して情報発信してくれる人がいることは、地域とのつながりにおける強みであり、非常にありがたいと感じている。

委員：PTAとして2年間関わり、この活動を通じて子供たちの生活に深く関わる地域の取り組みを知ることができてよかった。

委員：磐田の新校では、袋井の取組がどのように展開できるか考えながら報告を聞かせてもらった。

委員：新校ができると、子供が減り、教職員も減り、大変になるのではないか。学校で輝いている子供たちが、社会に出たときに同じように輝くことができるか心配である。市議会議員が学校外部から眺めるだけでなく、子供たちと直接触れ合うことで、学校や子供たちへの理解が深まる。議員の中に障害をもつ人々への理解者が増えると良い。

委員：先生方の熱意を見習い、卒業した子どもたちのためにも、より一層活動に取り組んでいかなければならないと感じた。

<地域資源活用の提案について>

委員：高南地区は小学校や自然もあり、地域資源活用に恵まれた地域である。

- ・コミュニティセンターで行われる敬老会のステージの飾り付けの制作。
- ・高等部農園芸班による花の販売（将来の職業、自立につながる）
- ・市と連携し、学校周辺の空き地を花壇として整備（地域貢献と生徒の誇りにつながる）

- ・販売会の際には、袋井市情報配信サービス「メローねっと」を活用（より多くの地域住民への情報発信につながる）

(5) 校内コンプライアンスについて

①・本年度の不祥事根絶取組みについて、資料をもとに報告

②質疑応答

<教職員通勤退勤経路の危険箇所地図について>

委員：教職員が作成した危険箇所を示した地図を地域の交通安全協会と共有できないか。

学校：教職員が危ないと感じた場所なので主観的のものであるが、写真を撮っていただいて良い。

<業務改善について>

委員：来年度の取り組み目標に入っているが、今までも行っていたか。

学校：本年度も、原則 19 時退勤、水曜日の定時退勤を推進している。

委員：教員が休暇を取得しにくい現状があるか。教職員の健康維持のために 5 日間以上の休暇取得は重要である。男性の育児休業取得状況はどうか。

学校：年休取得は、県から年間 16 日を取得目標として示されている。多くの教職員は、夏休みなどの長期休業中に計画的に休暇を取得している。年休取得が 5 日未満の教職員はほぼいなく、ほとんどの教職員はそれ以上取得できている。また、今年度、男性教職員 4 名が育児休業を取得した。男性の育休取得期間は、短い場合は 2 週間程度、長い場合は数ヶ月に及ぶ。休暇取得中は他の職員が業務をカバーしており、組織として育休が取得しやすい雰囲気になっている。

<職場の環境改善について>

委員：職員トイレの環境改善が行われると良い。予算は基本的に子供たちのために使われるべきだが、教職員の環境を向上させることが、結果的に働き方改革にも繋がるのではないか。

学校：過去に特別支援学校で若手職員のメンタル不調の割合が高まった時期があった。今は、職員が一人になれる場所がほとんどなく、トイレでさえプライバシーが確保しにくい状況になっている。物理的な環境整備は、職員のウェルビーイングにとって非常に重要である。

(6) 校長挨拶

- ・お礼

